

平成25年9月

財政通信 No.22

だいぶご無沙汰をしました。ひさびさの財政課長です。〈()〉

思い起こせば2年前の8月末、「深い眠りからさめると、そこは病院のベッドの上だった。」てな感じであまりうれしくない長めの夏休みを頂いてから2年が経過しました。今年4月の人事異動では大ベテランの〇補佐が10年ぶりに異動し、本人は「ついに俺にも明るい未来がやってきたか。・・・そうだ、かあちゃんに内緒でオガサカの新しいモデル注文しなくっちゃ。」と喜んでいましたが、私といえば「じぇじぇじぇ、おら、どうすればいいんだ。だれか助けてケロ！」といった感じ。でも後継者として財政経験のある女性の〇補佐がきてくれて一安心といったところです。なでしこJAPANの澤選手ばりに「苦しい時は私の背中を見て！チョット小さいけど。」とボール（仕事）を的確にさばいてくれています。ありがとうございます〇補佐！あれ、〇補佐どこにいったの？

さっきから隣にすわってたって。ゴメン。ゴメン。

私ですか？とりあえず定期的に病院通いしてまして、担当の先生曰く「アルコールね～。付き合い程度ならいいんじゃないかな～。」てなことでアルコールも解禁してます。体調もきわめて良好です。

ことしも猛暑が続いていますが職員のみなさんも健康には気を付けてこの夏を乗り切ってくださいね。筑波大の先生も言ってたけど、最近では血管を健康に保つことが大事だって。血液サラサラには玉ねぎがいいみたいです。あ、そうそう。玉ねぎを塩コショウして牛乳を加えて炒めるとクリーミーでおいしくてだれか言ってたなあ～。試してみてください。ちなみに私は作ったことないけど。

さて、そろそろ本題に入りましょう。今回の話は平成24年度の決算状況についてです。

§1 はじめに

例年、5月中旬ごろ、県から地方財政状況調査の事務連絡通知が届きます。この調査は全国的に総務省が実施するもので、通称、決算統計と呼ばれるものです。県のヒアリングは7月初めに行われることが多いのですが、今年は7月末の日程でした。調査表の作成や検収調書作成スケジュールに余裕ができたと思ったのも束の間、よく読んでみると書類提出は例年通り7月初め、ヒアリングは健全化判断比率にかかる調査と合わせて実施する内容。結局選挙の関係でヒアリングが先に延びただけの話でした。

この調査は簡単に言うと、出納整理期間（4月～5月）が終わり、会計を閉めた後、決

算額を精査し、全国自治体間でのいろいろな数値分析に活用できるよう分類を行っていくものです。

この時期、グループ員は、神経を研ぎ澄まして数字と悪戦苦闘しながら業務をすすめていきます。調査表の作成が完了したときは、グループ員全員で万歳三唱したい気持ちです。

私も同じ気持ちで打ち上げの慰労会には参加しています。ありがとうみんな！

§ 2 平成24年度決算状況

(統計調査作業がすすんだある日)

G員：とりあえず収支状況がまとまりました。

係長：形式収支（歳入歳出差引額）はどれくらいでたかな？

G員：11億5千万円です。昨年が11億2千万円ですから3千万円ほどの増額ですね。

ここ10年間でみると5～6億円程度で推移してきましたが、昨年に続き10億円の大台を超えています。

係長：歳入決算額を見てみると総額は236億9千万円、地方交付税は2億5千万円の減額となってるね。昨年は震災復興特別交付税が4億6千万円入ってきたけど、今年は1億円程度しか入ってこないからその影響が大きいね。市税も評価替えの影響で固定資産税等が減収。一方、増額となったのは前年度の繰越金。それと市債も増額だね。道路・コミュニティセンター・市営住宅などの改修を行ったからね。繰入金を増額は東日本大震災復興基金を防災・減災事業のために繰り入れたものだったね。歳入全体では1億1千万円の増額ということか。歳出の状況はどうかな？

G員：歳出総額は225億4千万円です。前年より8千万円程度の増額となっています。増額となった主なものは、民生費、土木費、教育費などです。民生費は生活保護費の増、それと国保特別会計への繰出金も伸びています。土木費は道路改良事業や市営住宅の改修が大きいですね。教育費は義務教育施設整備基金への積み立てや、城西中学校大規模改修工事の実設計計を行っています。若柴公園のテニスコートの改修などもありました。

減額となった主なものは総務費、衛生費、災害復旧費です。総務費は住民情報基幹系システム運用費の減が大きいです。また衛生費では清掃工場の起債償還が進み、塵芥処理組合への負担金が減となっています。災害復旧費の減は昨年度で復旧・復興事業がかなり進んだことが要因ですね。

補佐：形式収支は順調といったところだね。実質収支（形式収支－翌年度に繰り越すべき財源）はどうだったのかな？

係長：実質収支も昨年度を上回る10億8千万円の黒字です。

補佐：単年度収支（H24実質収支－H23実質収支）は？

係長：これも7千万円の黒字となっています。それと実質単年度収支も1億7千万円の黒字です。

補佐：収支はほぼ良好といえるね。積立金も財政調整基金に1億円積むことができたし、当面の目標である一般財源基金30億円までもう少しといったところだね。

課長：収支状況が黒字なのは当然として、実質収支でも2年続けて10億円単位の黒字を出しているのはうれしい限りだ。これまでの財政健全化の取組の効果が出てきたようだね。各課にも施設の修繕や更新を先延ばししてもらったり、業務量も増えてきているなか職員の補充を抑制し、嘱託職員等による対応で人件費を抑制して乗り切ってきた成果だと思うね。

補佐：国の地方配慮の政策がここ数年続いてきたおかげで地方交付税が確保できたし、実質的な交付税である臨時財政対策債も増額になっている。ただ、市税が減収になっているのは注意が必要ですね。

課長：そうだね。それと臨時財政対策債は後年度に国が補てんしてくれるにしても、できれば縮小したいと思うな。国の政策転換の影響を受けやすいからね。

補佐：国の緊急経済対策のおかげで、円安や株価高が続いているから景気が持ち直してる感じはするけど、来年度に消費税率の引き上げが行われれば、一気に景気が冷え込む可能性もありますね。黒字分はしっかり蓄えて、財政基盤を確かなものにしていきましょう。

課長：そうだね。そして市税も増収の方向になってくるといいね。安定した自主財源の確保は、健全な財政運営上も重要な事だからね。

§ 3 健全化判断比率

(健全化判断比率の算定が終わりつつある7月中旬)

G員：市の借金残高は多いと言われているのはどうしてですか？

係長：竜ヶ崎ニュータウン開発や佐貫駅前開発などのインフラ整備、学校や清掃工場、総合運動公園建設の財源調達のために起債を活用し、その償還がピークの状態にあるからだね。

G員：今は、借入れたローンを毎年着実に返済しているところなんですね。だから、健全化判断比率は昨年に比べて実質公債費比率は0.1ポイントの減、将来負担比率は8.1ポイントの減と改善していますね。

係長：そうだね。塵芥処理組合への清掃工場建設にかかる起債償還負担も平成26年度で終了するし、新規の市債(建設地方債)の借入れも事業を精査して行っているから、市債残高は着実に減少方向にある。健全化判断比率が毎年改善しているのは、将来負担を見据えた財政健全化の取組による成果と言えるね。

G員：財政健全化の取組といえば、健全化判断比率の根拠である「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」(通称「財政健全化法」)による基準とは別に、市でも

独自の基準を定めていますね。

係長：「龍ヶ崎市財政運営の基本指針等に関する条例と施行規則」のことだね。法律による早期健全化基準（破綻防止）や財政再生基準は、自治体の財政破綻を念頭においたイエローカードやレッドカードに相当する。これをクリアすることは当たり前のことだけど、更に法律を上回る独自の基準を定めて健全な財政運営を進めて行こうというのが趣旨なんだ。茨城県内では初の取組だからね。

課長：財政健全化に向けて着実に前進していると言えるけど、気掛かりなこともある。塵芥処理組合への起債償還負担が平成26年度には終了するけれど、今後は施設の長寿命化のための改修が予定されているし、公共施設全般に老朽化が問題となってくる。将来負担があまり軽減されない心配があるけど、施設の更新をしないという訳にはいかないからな。

補佐：公共施設の更新問題は避けては通れませんからね。施設の更新といった建設事業を抑制すれば、将来負担が減ることになりますが、その結果施設の機能が低下したり、場合によっては施設そのものが崩壊しかねません。今年2月には、「龍ヶ崎市公共施設再編成の基本方針」を策定し、今後は個別の公共施設の具体的な見直しのための行動計画策定を進めていくので、これらの方針等を踏まえ、市債償還（借金返済）等のバランスも考えながら、管理・更新していくようにこれからも財政健全化に向けた取組をすすめていかなければなりませんね。

長々とお付き合いありがとうございました。この「財政通信」と併せて、既にホームページ上でお知らせしている「平成24年度龍ヶ崎市決算の概要（ダイジェスト版）」、さらには「決算から見える龍ヶ崎市の財政状況（平成24年度決算版）」をぜひご覧ください。（分かりやすくをモットーに作成しています。よろしくお願いします。）

では、また次回(^_^)/~